

基本理念

～創意に富み 思いやりのある
～信頼される病院をめざして～



眼瞼下垂について

市立池田病院 形成外科部長 福田 健児



- ・当院では両側の方は原則1泊～2泊の入院手術を勧めております。片側の方は日帰り手術で可能な場合があります。年間約150～200例ほどの眼瞼下垂手術を行っております。
- ・費用については、一般的な3割負担で外来の場合は約4～5万円です。入院の場合は8万円を超える為、高額療養費の申請を推奨しています。
- ・「眼瞼下垂かな」と思われる患者様がおられましたら地域連携室を通してご紹介いただければ、幸いです。

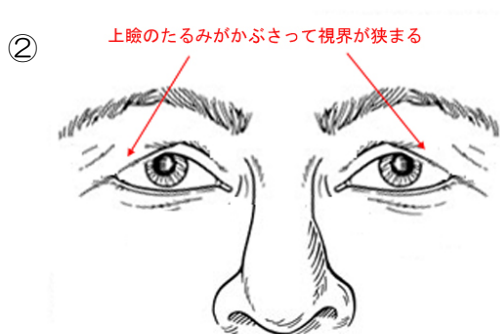
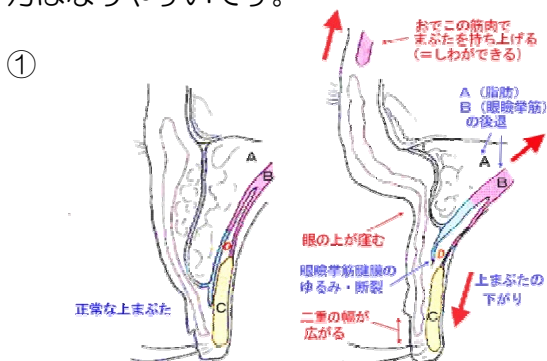
・加齢による眼瞼下垂は誰にでも起こります。視野が狭くなるという機能的障害と整容的な問題があります。また、眼瞼下垂があると視野を確保するため始終眉毛を挙げているため、頭痛や肩こりの原因になることもあります。

・主な原因は

①眼瞼挙筋腱膜の瞼板よりの離解 と ②皮膚弛緩 です。

①瞼を挙上する眼瞼挙筋の先端は膜状（挙筋腱膜）となって瞼の縁の瞼板に付着しています。加齢によりこの付着部分が外れると眼瞼下垂が起こります。ハードコンタクトレンズを長期使用している場合30代でも生じることがあります。

②加齢による皮膚のたるみがあるとやはり視野の妨げになります。もともと厚ぼったい瞼の方はなりやすいです。

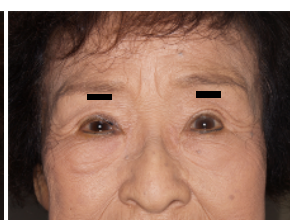


・治療

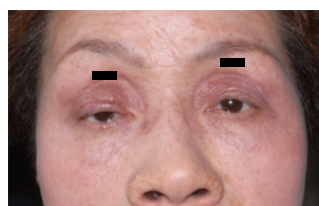
治療は上記の2つの原因を手術で治します。緩んだ挙筋腱膜を瞼板に固定し、余剰な皮膚は切除します。どちらか一方だけ治す場合もあれば両方治す必要がある場合もあります。



術前



術後



術前



術後

日本消化器病学会 市民公開講座



平成28年6月5日（日）13：00～千里ライフサイエンスセンターにて日本消化器病学会市民公開講座を開催しました。司会に大阪府立成人病センターの飯石浩康先生、大阪大学大学院より巽智秀先生、講師に大阪府立成人病センターより石原立先生をお招きし、「食道がん・胃がん・大腸がん・肝がん・膵がんの最新の治療」と題し、それぞれのテーマに対して当院の医師を含む6名の医師（当院からは、消化器外科主任部長 太田 博文・消化器外科部長 赤丸 祐介・消化器外科部長 森本 修邦・消化器内科部長 中原 征則・消化器内科部長 井倉 技）が講演いたしました。参加人数は319人と多くの方々にご来場いただき、たいへん盛況なものとなりました。



平成28年度市民公開講座

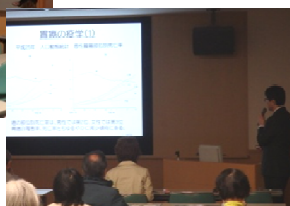
-これだけは知っておこう 病気・治療の豆知識40分講演-



第41回目となる市民公開講座は、消化器外科の赤丸部長による講演でした。胃がんとピロリ菌の関係性や化学療法・腹腔鏡手術など病状に合わせた治療の確立など様々なお話がありました。次回は7月13日（水）消化器内科の福田和人主任部長による「B型肝炎：診断と治療の進歩」です。

§ 胃がん - 予防と治療の最新情報 - §

消化器外科 赤丸 祐介 部長



開催日
4月21日(木)
参加人数
29名

MRI予約について



平成28年4月1日以降、MRIの増設により、申し込み日から数日以内で予約がお取り出来ます。対象となる患者様がおられましたらぜひお申し込み下さい。



発行・編集：市立池田病院 地域医療連携室 事務局

問い合わせ：072-754-6379（直通） 発行日：平成28年6月30日